

令和4年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立志茂田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業前に確認テストを行うことにより、各学年とも理解力や計算力が身に付いている。
- ・タブレットの活用を中心とした、工夫を凝らした授業により、数学に対する興味関心が高まったと考えられる。

(2) 課題

- ・応用問題などに取り組む姿勢に問題があると考えられる。深く考える習慣を、授業を通して生徒が獲得できるよう工夫を行っていく必要がある。
- ・数学の教科に留まることなく、身の回りの事柄を、数学を用いて解決する姿勢を身に付けられるよう、タブレット等のICT機器を有効に活用していく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	基礎・活用ともに目標値を上回った。	/	/
第2学年	基礎・活用ともに目標値を上回った。	基礎・活用ともに目標値を上回った。	/
第3学年	基礎・活用ともに目標値を上回った。	基礎・活用ともに目標値を上回った。	基礎・活用ともに目標値を上回った。

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	数と計算では、小数の乗法や分数の乗法、除法の定着に課題がある。	データの活用では、場合の数の計算の定着に課題がある。	数と計算では、特に文字と式の計算の定着が十分に図れている。
第2学年	数と式では、絶対値の理解に課題がある。	数と式では、特に1次方程式の定着が十分に図れている。	関数の領域では、比例の式からグラフを描くことに課題がある。
第3学年	関数では、特に1次関数の定着が見られてきた。	目標値を下回っているが、基本的な部分の定着が見られた。	目標値は上回っているが、関数の応用問題への取組に課題が見られた。

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	小数や分数などが含まれる基本的な計算について、苦手意識のある生徒が多いので、タブレットを活用して、計算方法の復習や計算の練習を積ませることで定着させていく。	比の扱いに慣れていない生徒が多いので、比例式の学習や比例・反比例の学習と合わせて復習を行い、定着を図る。	図形などの、日常生活との関連性に気づきにくい単元に苦手意識が見られた。日頃の授業で日常生活に関連づけた題材を扱っていく。
第2学年	1次関数の学習の中で、比例・反比例を復習し、基礎の定着を図る。プリントやタブレット学習を用いて、より一層の能力の伸長を図る。	習熟度別少人数学習を活かし、習熟度に応じた適切な問題を選び、生徒の様子を見ながら細かく指導していく。	基礎・基本の定着を図り、小テスト等を行うことで、自分の苦手な部分を理解し、克服していくことで、意欲的に学習に取り組ませる。
第3学年	「タブレットドリル」やまなびポケット「ドリルパーク」を用いて、問題数を多く解くことにより、基礎基本の定着をより一層図っていく。	習熟度別少人数学習を活かし、習熟度に応じた適切な問題を選び、生徒の様子を見ながら細かく指導していく。	基礎・基本の定着を図り、単元テスト等を定期的に行うとともに、領域をまたがる複雑な問題にも取り組ませる。